

# 水の事故防止

## 夏に集中

### 小さな「いのち」を守ろう

夏は「チビツ子たち」にとつても最も楽しい季節。でもこの時期は、いろいろな事故の多いシーズンでもあります。

とりわけ、水による事故で、いたいたいな「いのち」が失われたというニュースにふれると胸が痛くなります。昭和60年中の全水死者の約3



割が中学生以下の子供たちで、その事故のほとんどが夏休みに集中しています。

#### 保護者がいないと危険率が高まる

子供の水の犠牲者を統計からみてみますと、次のような特徴があります。

- 場所別では河川(106人)が最も多く、ついで海(86人)、用水堀(42人)、湖・沼・池(40人)、そしてプール(28人)の順です。
- どんなときに命を落としているかという点、水泳中(122人)がいちばん多く、ついで水遊び中(87人)、魚釣り(25人)、その他(16人)と報告されています。
- 保護者が同行せずに、子供だけで行った場合に起きた悲劇が、やはり全体の約7割を占めています。

#### 水の恐ろしさを教えよう

子供とりわけ3歳から5歳前後の幼児は、「水が命を奪う危険なもの」であることを、体験的

に知りません。

水しぶきをみれば、本能的に遊びどころがわいてきて、ヨチヨチ歩きで近づいていきます。ちよつと親が目を離れたスキに、とりかえしのつかない事態になることが多いのです。

また、小学生でよく見られる事故に、プールの排水口に足を吸い込まれて水死するというケースがあります。

水遊びをするときは、次のような点にぜひ注意して、事故を防ぎましょう。

- 近くに用水堀やため池などの危険な場所があるときは、管理者に申し入れて、サクやふたなどをしてもらおう。
  - 子供たちだけで水泳や水遊びに行かないように、ふだんから子供に言い聞かせる。
  - 出かけるときは、必ず大人が同行する。
  - 雨降りのあとは、川や用水が増水します。子供たちを近づけないように特に注意。
  - 危険な水辺で遊んでいる子供を見かけたら、進んで「危ないからやめなさい」のひと声を。
- 夏休みが楽しい思い出の日記帳となるように、ぜひお子さんたちと「水の恐ろしさ」について話しあっていたきたいものです。

## 安全で快適な横芝の海岸へ

### 安全祈願祭と清掃

安全で快適に過ごせる海水浴場を願ひ、7月8日に町や各種関係者による屋形海岸の安全祈願祭が行われました。また、12日には、婦人会や地元関係者が海岸や周辺の清掃を行い、夏本番へ向けて準備が整いました。



きれいな海岸へ……清掃を行う婦人会と地元関係者

### たばこは町内で買ひましょう

二百円のたばこ一箱を町内で買ひますと、約四十一円が町の税収となります。たばこ愛好者の皆さん、よろしくご協力をお願いします。

